



就 任 挨 拶

栃木県県土整備部

部長 横 尾 元 央

令和8年度から栃木県県土整備部長に就任しました横尾でございます。

一般社団法人栃木県建設業協会の皆様には、日頃から本県の県土整備行政の推進について格別の御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

建設業は、社会資本の整備や保全を担う産業として、地域の経済と雇用を支えるとともに、災害時には初動対応から復旧作業に至るまで、現場の最前線で地域の安全・安心を確保するなど、非常に重要な役割を担っています。皆様には、インフラ整備を行う「地域の創り手」としての役割はもとより、通常の維持管理、訓練を含めた災害対応に加え、近年では豚熱の防疫活動など、「地域の守り手」としても日々御尽力をいただいているところであり、重ねて御礼申し上げます。

さて、県におきましては、県政の基本指針となる「新とちぎ未来創造プラン」に掲げるとちぎの目指す将来像の実現に向け、「県土づくりプラン（2026-2030）」を策定し、取組をスタートさせました。県土づくりの各分野において今後進めていく11の「重点施策」と、建設業における担い手の確保・育成を含めた5つの「横断的施策」を掲げており、頻発・激甚化する自然災害から県民の生命・財産・暮らしを守り、インフラの老朽化などの課題解決を図るため、社会資本整備の加速化を図り、「安全・元気なとちぎを共に創る 未来につなぐ県土づくり」を着実に推進して参ります。

主な取組として、まず、建設業における労働環境の改善を図るため、原則全ての工事を発注者指定型の週休2日制工事の対象とするほか、猛暑対策や、工事着手までの余裕期間を設定した工事の発注による施工時期の平準化に努めるなど、働き方改革に向けた取組を継続して推進して参ります。また、建設現場の生産性向上を図るため、3次元データやICT建機の活用工事を推進しているところであり、令和8年度においては「建設DX推進事業費補助」を新たに創設し、関連機器の導入を後押しするとともに、導入時の相談窓口として「栃木県ICTアドバイザー制度」を創設しました。今後も「とちぎインフラDX構想」に基づき、ICT活用工事への理解促進や人材育成などの普及啓発を図って参ります。

これらの取組に加えて、将来の建設業を支える担い手の確保・育成の中核を担うインフラトレーニングセンターの設置に関しましては、貴協会及び公益財団法人とちぎ技術センターと連携して検討を進めることとしており、令和8年度にはニーズ調査を行い、求められる機能や規模、課題等を整理し、基本計画を策定していきます。

さらに、県では担い手の育成・確保のため、引き続き、資格・技能取得の支援や建設業・建設現場の魅力をあらゆる世代に伝えるなど、建設産業の持続的な発展に向けて取り組んで参ります。

今後とも、県におきましては、本県の将来像である「共に創る 人も地域も輝く“元気なとちぎ”」を実現するため、建設業界が直面する課題の解決に向けて「地域の創り手・守り手」である皆様と更なる連携を図って参りたいと考えておりますので、より一層の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴協会の益々の御発展と会員の皆様の更なる御活躍を祈念申し上げまして、就任の挨拶とさせていただきます。